

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
探究「シブヤ未来科」を始めとする授業や校外活動等、地域との連絡・調整に対する時間が教職員の負担となっている。	令和6年度は区立小中全校に協働本部が設置されたことに伴い、前年より増員（47→51人）となった。 1校に1人の本部もあることから、継続・安定的な協働活動の運営に向け複数配置を目指す。	各協働本部に配置している地域学校協働活動推進員を増員する。推進員が学校と地域との連絡調整を更に担い、増員により得意とする専門分野の拡充を目指す。	推進員増加により学校支援ボランティアが拡充することから、教職員の負担軽減を図る。	地域学校協働活動推進員数	51	人	75	59	本年度は、地域学校協働活動推進員の増員を通じて、学校と地域との連絡調整体制の充実を図った結果、推進員数は前年度の51人から59人へと増加し、一定の成果が見られた。一方で、本年度の目標値である75人には到達しておらず、配置の進捗に課題が残る結果となった。これは、学校ごとのニーズや配置条件の違いにより、増員が難しかったことが要因と考えられる。 今後は、推進員の役割や活動内容の周知を一層進めるとともに、学校や地域の実情に応じた柔軟な配置を検討し、継続的・安定的な協働体制の構築を図っていく。